

世界のオレンジ果汁は依然として供給不足が価格を支える

FreshPlaza 2023年8月18日

2022/23販売年度(以下「年度」)の世界のオレンジ果汁総製造量は150万トンで、前年度比9%減であった。米国農務省によると、オレンジ果汁の消費は世界的に堅調であるが、世界的な供給の制約により輸出は減少すると予想される。ブラジルが最大のオレンジ果汁製造・輸出国であり、世界のオレンジ果汁市場の70%以上を占めている。

ブラジル、メキシコ、EU、米国はすべて、2022/23年度にオレンジの収穫量が減少した。近年、米国のオレンジの作柄が異常気象とカンキツグリーニング病によって悪化しているため、米国はますますブラジルに目を向けている。米国農務省のデータによると、米国の2022/23年度のオレンジ果汁製造量は、前年度に比べて47%減少し、引き続き価格を押し上げている世界的な需給シナリオをさらに引き締めた。

市場筋によると、ヨーロッパの主要小売業者らは、これらの高い価格水準で契約することに慎重である。7月のブラジル産濃縮オレンジ果汁のミンテック(Mintec)社ベンチマーク価格[ミンテックコード:4Q04]は、前年比83%増の3,770ドル/トンに達した。これらの高価格にもかかわらず、自由購入市場におけるバイヤーからの需要は依然として堅調である。市場筋は、価格が8月に高水準に達する構えであることを示唆している。生産に関しては、状況がすぐに改善する可能性は低く、価格が緩和するのは、消費者が高価格を支払うことを嫌って需要が減退する時だけであると市場筋は予想している。

Fundecitrus(柑橘類保護基金)の最新の予測によると、ブラジルの2023/24年度のオレンジ収穫量(主要産地)は3億900万箱で、前年をわずかに下回っている。この出荷量はブラジルにとって適正な推計値であると考えられるが、市場筋は、減少する果汁の在庫を補充するには不十分であるという懸念を表明している。

トルコ 熱波が農業生産者に困難をもたらす

FreshPlaza 2023年8月21日

トルコのベリー輸出業者であるサフィールベリー社の上級副社長で農業技術者であるチハン・トズル氏は、トルコの熱波は同国の農業全体について状況を困難にしていると言い、「6月の第1週にトルコ全土で気温が上昇し始め、7月中旬から8月中旬の間に最高水準に達した。現在、トルコ南東部の気温は摂氏44~45度になっている。国全体が全般的に高温の影響を受けているが、特にトルコの南部地域は大きな影響を受けている。最も影響の少ない地域は、国の北部の黒海沿岸地域である」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

これが特定の作物にとって何を意味するかを考えると、植物が乾燥するリスクがあると同氏は説明する。「高温は、特に若い植物で熱ストレスを引き起こし、植物を乾燥させる。それに加えて、高温は果実に日焼けの染みを発生させ、収穫時期には収量が低下する。また、これらの高温と昨冬の少雨による水不足もある。冬の雨が少なかったために、地下水位は急落し、ダムの水位も非常に低くなっている。8月には、多くの生産者が作物の灌漑に苦労しており、それが一層の被害と低収量を引き起こしている。高温が植物に引き起こす熱ストレスはまた、健康な芽の形成に悪影響を及ぼす。特にサクランゴなどでは双子果が発生する。」

トズル氏によると、気候変動とインフレは果実や野菜の生産者に非常に困難をもたらしている。これによって、全体的な生産レベルが低下する可能性がある。「これらの高温によって最悪の影響を受ける作物を見てみると、それは主に乾燥地農業で生産されるオリーブ、イチジク、クルミ、小麦、大麦などの品目である。生産コストの増加に伴い、農業生産者であることがますます困難になっている。気候変動、高温、水不足は人々を農業から遠ざけ、農業生産の減少を引き起こす。トルコに特定して短期的に見てみると、このような気温が続けば、特に収穫間近のイチジクやオリーブなどの農産物で収量と品質が低下する。」

執筆者: ニック・ピーターズ